

介護 DX サポート事業スタート

～アズパートナーズが導く介護業界のデジタル革命～

株式会社アズパートナーズ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO 植村 健志）は、他の高齢者ホームのオペレーション変革を支援する「介護 DX サポート事業」の本格的な展開を開始いたします。

この事業では、高齢者ホームのデジタル化を全面的にサポートし、IoT/ICT 機器の導入にとどまらず効率的な人員配置やサービスの質の向上、収益の改善を目指します。

さらに、スタッフの採用や教育の方法についてもサポートしてまいります。

【アズパートナーズの介護 DX サポート事業の内容】

① IoT/ICT 導入フォローアップ

導入されているデジタルツールの利用を最大化するためのフォローアップ支援を提供します。また、スタッフがテクノロジーを効果的に活用できるようトレーニングとサポートを実施します。

② データ活用

収集されるデータを分析した上で介護の質を根本から向上させるための改善策を策定し、データドリブンな介護サービスの実現を目指します。

③ 運営効率の改革

デジタルツールとデータを駆使して介護業務の効率化を図り、スタッフのモチベーションを高め、最適のケアを提供します。

④ 生産性向上と収益拡大

効率化を通じて、施設の生産性を向上させ、収益拡大を実現します。

アズパートナーズの介護 DX サポート事業は、技術導入に留まらず、高齢者ホームの運営を根底から変える可能性を秘めているものであり、高齢者ホームが直面する課題に対応し、より良い未来への道を切り開くことを目指します。

■既に取り組んだ事例紹介

医療法人啓仁会 介護老人保健施設 いとうの杜様（静岡県伊東市、施設長 山下 重雄様）にて、介護 DX サポートを実施した事例を次ページにてご紹介させていただきます。この施設での導入事例では、当社が使用している介護現場における IoT/ICT 機器である「EGAO link®」の導入とデータ活用により、業務プロセスが効率化され、介護スタッフの負担が大幅に軽減されました。その結果、スタッフの働きがいの向上につながっております。

この事例は、当社の介護 DX サポートの効果を明確に示しており、他の高齢者ホームにおける同様の成果達成への可能性を広げています。

株式会社アズパートナーズは、この成功を基に、さらなる高齢者ホームへのサービス展開を積極的に進めていきます。

お問い合わせ先
（株）アズパートナーズ
事業推進部 事業戦略室
TEL：03-5577-6428
Mail: press@as-partners.co.jp

【株式会社アズパートナーズ 概要】

設立 : 2004 年 11 月 2 日
本社所在地 : 東京都千代田区神田駿河台 2-2 御茶ノ水杏雲ビル 11 階
代表取締役社長 兼 CEO : 植村 健志
事業内容 : シニア事業、不動産事業
資本金 : 585 百万円（2024 年 5 月現在）
ウェブサイト : <https://www.as-partners.co.jp/>

踏み出せ！介護DX!! レポート -IoT/ICTプラットフォーム定着サポート- 医療法人 啓仁会 介護老人保健施設 いつもの杜



介護老人保健施設 いつもの杜

◆ 業務効率化、生産性向上推進体制加算Ⅱ算定開始

介護付きホーム(介護付有料老人ホーム)アズハイムシリーズを運営する、株式会社アズパートナーズ(東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO:植村 健志)は、2024年3月、医療法人啓仁会 介護老人保健施設 いつもの杜(静岡県伊東市、施設長 山下 重雄 様、以下「いつもの杜様」)への介護IoT/ICTプラットフォーム導入、定着サポートを提供しました。

いつもの杜様は、2023年5月、当社が運営する介護付きホーム(介護付有料老人ホーム)アズハイム三鷹(東京都三鷹市)を見学され、IoT/ICTの導入から得られる、夜勤体制の見直しや、記録業務の大幅な削減、生活リハビリや個別アクティビティの時間創出、介護データの活用等、様々な効果をご覧になり、『EGAO link』及び、定着サポートを採用いただきました。

※『EGAO link』詳しくはこちら↓
<https://as-heim.com/lp/egaolink/>

-新しいことへの挑戦は、本当に大変！でも、みんなで踏み出せば乗り越えられます！-

業務効率化や、生産性向上を推進する前提として、IoT/ICTのようなデジタルツールは、必須アイテムです。しかし、新しい挑戦は、不安や葛藤をチームにもたらします…。最大の問題は、「想像がつかないこと」。コアメンバーの方々とのミーティングや、施設全体での会議を通して、施設全体で「これから起きる変化」を当社の事例を通して、イメージしやすい状態を創ります。ポイントは3つです。

- ①デジタル化は進む。諦めて(ポジティブに)受け入れよう！
- ②最初の序盤戦を乗り越えれば、これまでよりもゆとりは増える！
- ③何より、アズパートナーズが伴走することで、通常業務が滞ることなく、定着できる！
全27ホームで標準的に導入・活用しているノウハウや、これまで多数の法人様にサポートしてきた経験を活かして、課題に対する対策等講じながら、約1か月伴走させていただきました。

- 全体会議に参加された職員の方からの声 -

- ・ ICT化することで業務改善の可能性のイメージがついた・ご利用者との関わりが増えるのではないかと
 - ・ 使い始めてみないとわからないが、教えてもらいながら活用していきたい
 - ・ 最初は混乱するが人手不足の一打となりうる手段なので進めてもらいたい など
- ←ドキドキ、ワクワクな想いと幕開け直前の真剣な温度感が伝わってきました！



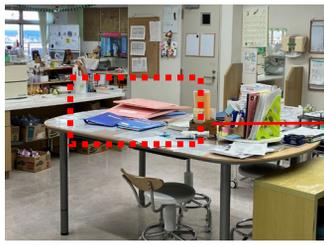
EGAO link® 仕組み



2023年10月 導入前全体説明会
約80名のスタッフが参加されました。

◆ ベッド上での状態が可視化

これまででは、ご利用者がお部屋で過ごされている様子を確認するために、職員が直接お部屋に訪室していましたが、眠りSCANの導入によって手元のスマートフォンやモニターから、ベッド上の状態を確認できるようになりました。特に夜間帯は、職員の人数が少ない中での対応となるため、訪室のタイミングが掴めることは、ご利用者・職員の両者にとって負担が少なくなります。職員様より、夜間眠れていると思っていた方がデータを見ると、眠れていないことが分かったという声もありました。IoT/ICTを活用することは、「職員の目」と「経験値+システムの力」を合わせ、オペレーションの改善や、ケアの質を向上させることに繋げていくことが出来ます。センサーマットの必要性も見直し、ベット周りも整理されることで、快適な住空間の提供にも繋がります。管理者の方と各フロアを回った際、「マットが減ってスッキリしていますね！」とコメントもいただきました。

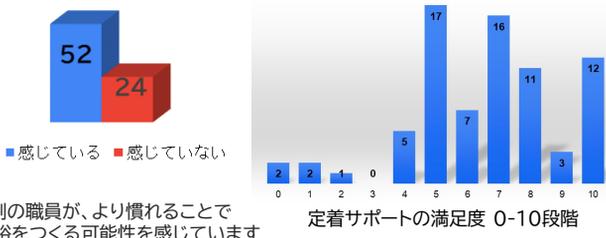


記録ソフトの導入により紙面でのチェック表が不要になったため、収納ケースともお別れすることになりました

◆ ペーパーレス化へ

ご利用者のケアプラン、食事、排泄、バイタルチェック表などの様々な記録類が現場にはあります。一部残っている記録類はありますが、日常的な支援内容の記録類は、介護記録ソフト(CARE KARTE)に移行できました。慣れないうちは、介護記録ソフトに直接入力をするのではなく、チェック表に記録してから…といったことも見受けられましたが、直接記録ソフトに入力する意識をもっていただくように、実践していただいた結果、ケースファイルを処分することができ、ステーション周りの美化に繋がりました。これから更に介護記録ソフトの仕組みや内容を理解することで、ペーパーレス化が進み、実際に30分記録に要していたが数分に短縮されたとの声もありました！

◆ 満足度調査の結果 n=76 単位:人



7割の職員が、より慣れることで余裕をつくる可能性を感じています

いつもの杜様は、施設入所、短期入所生活介護、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、居宅介護支援サービスの5類型を運営されており、同時並行で、進めさせていただきました。

サポート終了後、当社に対する評価とIoT/ICT化に対する満足度調査にご協力をいただきました。その中で、「当社のサポートがなかった場合」を想定して回答いただいたコメントを一部ご紹介いたします。

- ・ 便利な機能を知らず、操作方法のみの理解で終わっていた
- ・ 小さな疑問点が、なかなか解決できずに定着まで時間がかかった
- ・ 不満が高まり、退職者が多かったのではないかと
- ・ サポートが有ることで、疑問や不明点の解消がその日のうちに出来た
- ・ PCが得意なので個人的にはなんとかなった
- ・ 自分の業務に集中できなかった
- ・ 残業が増えていたのではないかと など

今後のいつもの杜様のご活躍とさらなる進化を応援しております！